

素直な気持ち

JJ1SXA 池

教育家・小説家の下村湖人は、「次郎物語」で、その理想主義と自由主義的教育思想により多くの読者を得ましたが、氏の言葉に、次のようなものがあります。

「然り」と「否」とを、素直な気持ちと、素直な態度と、素直な言葉つきとで答える人達が集まって作った社会ならば、それは間違いのない民主主義社会である。

常に、是非こうありたいものです、「素直な気持ちと、素直な態度」これこそ大切な事であり、大切にしなければならない事でしょう。

別稿に書いた、「司馬遷」は、中国が漢の時代の皇帝、武帝が敵の捕虜になった將軍、李陵が戦死しなかった事に怒りをたぎらせ、側近に意見を求めた時、側近達は口々に將軍を悪し様に言い、皇帝におもねる中、自軍の何倍もの軍勢を相手に勇猛果敢に戦った將軍を弁護すると言う、一人勇氣ある発言で、最も屈辱的とされる宮刑に処せられたのであった。

(宮刑というのは、古代中国の五刑の一で、男子は去勢、女子は生涯宮中に幽閉、死刑に次ぐ重刑だそうです)

こうなると、本当にイエス・ノーをはっきり言う事が良いのか？と言う気がしないでも無いのですが、容易に自害もできたであろうが、後世に「史記」を残すため、生と死の間をさまよい、齒を食いしばって生の側にとどまったという話を聞くと、救われます。

民主主義社会である現代の日本でも、現実には、職場や近隣関係、友人関係その他色々な場面等で、いかに多くのイエスマンが存在するかを皆さんはご存知でしょう、またそうせざるを得ない環境がある事も紛れも無い事実です。

でも、やはり「素直な気持ちと、素直な態度」は大切な事であり、これを失うと大変な世の中になりかねません。

「紳士的」が、キーワードの240においては、「素直な気持ちと、素直な態度」は、忘れる事無く、ずっと持ち続けたいものです、そして、「然り」と「否」とを、素直な気持ちと、素直な態度と、素直な言葉つきとで答えることができる環境を、常に心がけたいものです。